

Category (3) 特殊な背景因子をもつ傷病者に与えた影響

CQ8-1：小児・妊婦・高齢者

【背景】

本府において新型コロナウイルス感染拡大が小児・妊婦・高齢者に対する救急医療体制にもたらす影響について、これまで2019年を比較対照とし、2020年、2021年について報告してきた。新型コロナウイルス流行期後期である2022年における医療機関の救急搬送傷病者収容の実態とその入院経過について明らかにする。

【方法】

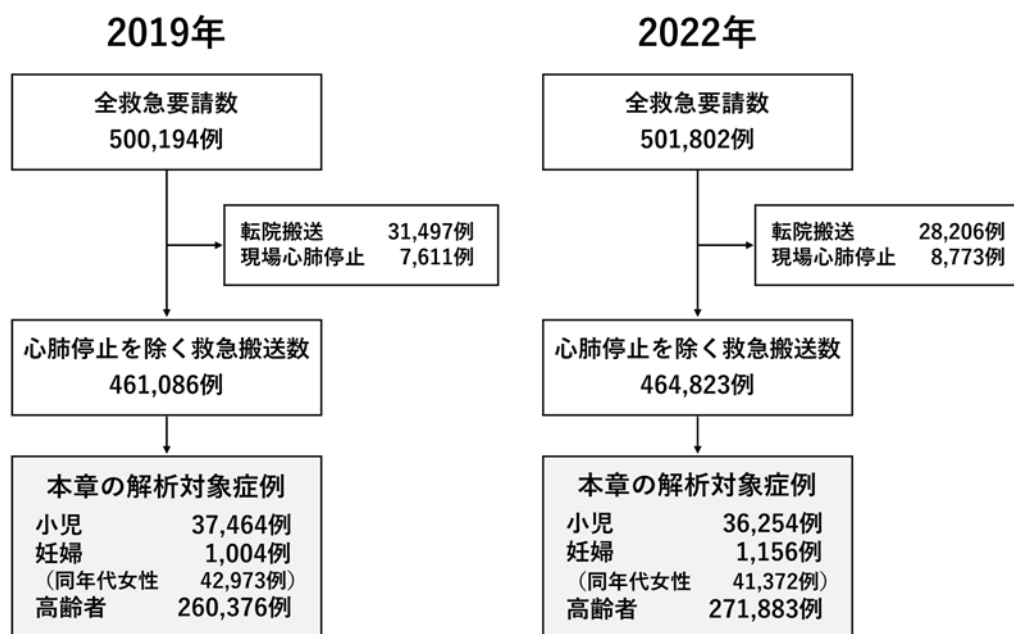
2019年および2022年のそれぞれ1月1日から12月31日までのクリーニングデータから、小児・妊婦・高齢者について、年次比較を行った。小児は0-14歳、妊婦と同年代の女性は15-44歳の女性、高齢者は65歳以上とした。

評価項目は、搬送傷病者数、搬送困難症例数、初診時転帰、入院21日後転帰、を設定した。すべての項目について記述的に評価し、搬送困難の発生頻度についてはロジスティック回帰分析を追加した。

【結果】

傷病者フローを示す（図表69）。

（図表69）傷病者フロー



1) 搬送傷病者数

小児、妊婦、高齢者のカテゴリー別に搬送傷病者数を示す(図表70)。2019年と比較し2022年は、小児の搬送傷病者数は減少傾向にあった。妊婦、高齢者の搬送傷病者数は増加傾向にあった。

(図表 70) 搬送傷病者数の変化

	2019	2022	p値
小児	37,464	36,254	
乳児 (0歳)	3,344 (8.9)	3,544 (9.8)	
幼児 (1-4歳)	18,864 (50.4)	17,417 (48.0)	<0.01
学童期 (5-9歳)	8,471 (22.6)	8,240 (22.7)	
思春期 (10-14歳)	6,785 (18.1)	7,053 (19.5)	
妊婦	1,004	1,156	
高齢者	260,376	271,883	
前期高齢者 (65-74歳)	71,646 (27.5)	64,925 (23.9)	
後期高齢者 (75-89歳)	157,073 (60.3)	166,362 (61.2)	<0.01
超高齢者 (90歳以上)	31,657 (12.2)	40,596 (14.9)	

※結果は、症例数 (%) で提示した。p値はカイ二乗検定で算出した。

2) 搬送困難症例

搬送困難症例の頻度について比較した。2019 年と比較し 2022 年は、すべてのカテゴリーにおいて搬送困難が増加していた (図表 71)。妊婦の搬送困難症例の頻度については同年代女性と違いがないことから、妊婦であることが搬送困難の原因にはなっていないことが分かった。

(図表 71) 搬送困難症例の変化

	2019	2022	オッズ比 (95%信頼区間)	p値
小児	441 (1.2)	1,226 (3.4)	2.94 (2.63-3.28)	<0.01
乳児 (0歳)	26 (0.8)	126 (3.6)	4.70 (3.01-7.20)	<0.01
幼児 (1-4歳)	146 (0.8)	446 (2.6)	3.37 (2.79-4.07)	<0.01
学童期 (5-9歳)	143 (1.7)	336 (4.1)	2.48 (2.03-3.02)	<0.01
思春期 (10-14歳)	126 (1.9)	318 (4.5)	2.50 (2.03-3.08)	<0.01
妊婦	35 (3.5)	78 (6.7)	2.00 (1.33-3.01)	<0.01
同年代女性 (15-44歳)	1,518 (3.5)	4,015 (9.7)	2.93 (2.76-3.12)	<0.01
高齢者	6,563 (2.5)	28,867 (10.6)	4.59 (4.47-4.72)	<0.01
前期高齢者 (65-74歳)	1,917 (2.7)	5,973 (9.2)	3.69 (3.50-3.89)	<0.01
後期高齢者 (75-89歳)	3,754 (2.4)	17,395 (10.5)	4.77 (4.60-4.94)	<0.01
超高齢者 (90歳以上)	892 (2.8)	5,499 (13.5)	5.40 (5.03-5.81)	<0.01

3) 初診時転帰

医療機関受入れ初診時の転帰（入院、帰宅、死亡など）について比較した（図表 72-74）。すべてのカテゴリーにおいて 2019 年と 2022 年で大きな変化は見られなかった。妊婦の死亡症例はなかった。

（図表 72）初診時転帰(小児)

2019	入院	帰宅	転院	死亡	不搬送
乳児（0歳）	638 (19.1)	26,82 (80.2)	21 (0.6)	2 (0.1)	1 (0.0)
幼児（1-4歳）	3,091 (16.4)	15,719 (83.3)	54 (0.3)	0 (0.0)	0 (0.0)
学童期（5-9歳）	1,404 (16.6)	7,019 (82.9)	48 (0.6)	0 (0.0)	0 (0.0)
思春期（10-14歳）	1,015 (15.0)	5,722 (84.3)	48 (0.7)	0 (0.0)	0 (0.0)
2022	入院	帰宅	転院	死亡	不搬送
乳児（0歳）	637 (18.0)	2,877 (81.2)	26 (0.7)	4 (0.1)	0 (0.0)
幼児（1-4歳）	2,510 (14.4)	14,815 (85.1)	87 (0.5)	3 (0.0)	2 (0.0)
学童期（5-9歳）	1,091 (13.2)	7,082 (85.9)	66 (0.8)	1 (0.0)	0 (0.0)
思春期（10-14歳）	976 (13.8)	6,031 (85.5)	44 (0.6)	2 (0.0)	0 (0.0)

（図表 73）初診時転帰(妊婦)

2019	入院	帰宅	転院	死亡	不搬送
妊婦	417 (41.5)	585 (58.3)	2 (0.2)	0 (0.0)	0 (0.0)
同年代女性（15-44歳）	6,872 (16.0)	35,805 (83.3)	283 (0.7)	3 (0.0)	10 (0.0)
2022	入院	帰宅	転院	死亡	不搬送
妊婦	530 (45.8)	616 (53.3)	10 (0.9)	0 (0.0)	0 (0.0)
同年代女性（15-44歳）	5,915 (14.3)	35,162 (85.0)	272 (0.7)	20 (0.0)	3 (0.0)

（図表 74）初診時転帰(高齢者)

2019	入院	帰宅	転院	死亡	不搬送
前期高齢者（65-74歳）	30,541 (42.6)	39,860 (55.6)	1,156 (1.6)	82 (0.1)	7 (0.0)
後期高齢者（75-89歳）	79,445 (50.6)	74,386 (47.4)	2,982 (1.9)	258 (0.2)	2 (0.0)
超高齢者（90歳以上）	19,838 (62.7)	11,120 (35.1)	591 (1.9)	107 (0.3)	1 (0.0)
2022	入院	帰宅	転院	死亡	不搬送
前期高齢者（65-74歳）	28,278 (43.6)	35,333 (54.4)	1,166 (1.8)	143 (0.2)	5 (0.0)
後期高齢者（75-89歳）	84,040 (50.5)	78,129 (47.0)	3,657 (2.2)	530 (0.3)	6 (0.0)
超高齢者（90歳以上）	24,800 (61.1)	14,612 (36.0)	975 (2.4)	209 (0.5)	0 (0.0)

4) 入院後 21 日時点の転帰

入院となった傷病者の入院後 21 日時点の転帰（入院、帰宅、死亡など）について比較した（図表 75-77）。小児ならびに妊婦では 2019 年と 2022 年で大きな変化は見られなかった。一方、高齢者では入院継続や死亡が増加傾向にあった。

(図表 75) 入院後 21 日転帰 (小児)

2019	入院継続	退院	転院	死亡
乳児 (0歳)	16 (2.5)	611 (95.8)	10 (1.6)	1 (0.2)
幼児 (1-4歳)	46 (1.5)	3,011 (97.4)	30 (1.0)	4 (0.1)
学童期 (5-9歳)	40 (2.8)	1,345 (95.8)	16 (1.1)	3 (0.2)
思春期 (10-14歳)	42 (4.1)	950 (93.6)	21 (2.1)	2 (0.2)
2022	入院継続	退院	転院	死亡
乳児 (0歳)	22 (3.5)	601 (94.3)	13 (2.0)	1 (0.2)
幼児 (1-4歳)	32 (1.3)	2,452 (97.7)	22 (0.9)	4 (0.2)
学童期 (5-9歳)	24 (2.2)	1,056 (96.8)	10 (0.9)	1 (0.1)
思春期 (10-14歳)	46 (4.7)	900 (92.2)	28 (2.9)	2 (0.2)

(図表 76) 入院後 21 日転帰 (妊婦)

2019	入院継続	退院	転院	死亡
妊婦	25 (6.0)	390 (93.5)	2 (0.5)	0 (0.0)
同年代女性 (15-44歳)	466 (6.9)	6,080 (89.6)	191 (2.8)	51 (0.8)
2022	入院継続	退院	転院	死亡
妊婦	38 (7.2)	480 (90.9)	9 (1.7)	1 (0.2)
同年代女性 (15-44歳)	427 (7.2)	5,188 (87.8)	237 (4.0)	59 (1.0)

(図表 77) 入院後 21 日転帰 (高齢者)

2019	入院継続	退院	転院	死亡
前期高齢者 (65-74歳)	8,504 (28.1)	18,363 (60.6)	1,874 (6.2)	1,547 (5.1)
後期高齢者 (75-89歳)	27,249 (34.5)	42,276 (53.6)	5,015 (6.4)	4,391 (5.6)
超高齢者 (90歳以上)	7,553 (38.3)	9,313 (47.3)	1,199 (6.1)	1,642 (8.3)
2022	入院継続	退院	転院	死亡
前期高齢者 (65-74歳)	8,246 (29.2)	16,225 (57.4)	2,096 (7.4)	1,702 (6.0)
後期高齢者 (75-89歳)	29,641 (35.3)	42,315 (50.4)	6,092 (7.3)	5,927 (7.1)
超高齢者 (90歳以上)	9,514 (38.4)	11,152 (45.0)	1,590 (6.4)	2,512 (10.1)

【小括 (CQ8-1)】

新型コロナウイルス蔓延とその行政施策により、小児、妊婦、高齢者をはじめ、府民を取り巻く環境は大きく変化し、その結果、小児、妊婦、高齢者の救急医療体制も平時と異なるものとなっていた。2020 年の報告では高齢者でのみ搬送困難症例が増加したが、2021 年では高齢者だけではなく小児、妊婦に至るまで搬送困難の拡大が明らかとなった。今回の 2019 年と 2022 年を比較した報告では、その傾向はさらに強まり、小児、妊婦、高齢者といった社会的弱者とされる傷病者群における救急搬送困難が継続している実態が明らかとなった。

救急搬送後の転帰に関しては、高齢者を除くカテゴリーはこれまでと同様で、2022 年においても新型コロナウイルス蔓延以前と大きな変化はなかった。一方で、高齢者では死亡数が増加傾向にあったことから、次項では高齢者について絞り検討する。